

KLIC 02 Annual Report



Kagoshima
Cultural
Information
Center

がごしま文化情報センター「Arts Crossing」

企画制作・監修：がごしま文化情報センター（KCIC）アートディレクション
アートディレクション：高橋亮太（オキッドデザイン）
デザイン協力：北村公博
印刷協力：株式会社 創日印刷

本冊は文化振興地域の魅力づくり実行委員会（鹿児島県
92-0815 鹿児島県鹿児島市易居町1-9 鹿児島市役所 みなと大通り別館1F
がごしま文化情報センター（KCIC）所蔵

tel.099-236-8121 information@kcic.jp <http://www.kcic.jp>
2018年3月25日発行
本文化振興地域の魅力づくり実行委員会 本紙の制作・写真・イラスト等の無断転載を禁じます。

What's ?

2015 SPRING

この春、2つのスペースがリニューアル。

KCICが **大きく** くなりました。

2015年春、KCICが広く、もっと楽しくニューアルオープン。国内外の展覧会や芸術祭を中心としたフライヤーの配布や美術書籍の閲覧スペースといったこれまでのインフォメーションスペースに加え、トークやワークショップ、展示などイベントも開催可能なスペースを設けました。この2つの空間をスタジオA、スタジオBとして様々なオリジナル企画を行っています。

設計・施工：第一工業大学 模本研究室

01 新しくなったKCICの企画第1弾！
「KCIC アニュアル レポート02」開催中！
KCIC2014年度の1年間の活動を展示でご紹介します

◎KCIC アニュアル レポート 02

2015年4月2日(木)~5月22日(金)

※10:00~18:00 日・水曜休所

かごしま文化情報センター (KCIC)

KCIC 02
Annual
Report

07 フリーペーパー「Arts Crossing」

かごしま文化情報センターが年2回発行するフリーペーパー。各地で活躍するデザイナーやアーティストのアートワークと、KCICの活動をご紹介します。バックナンバーはKCICにて入手可能なものもあります。ぜひご利用ください。

08 ART LIBRARY

KCICがセレクトした、現代美術、デザイン、建築などの書籍や国内の展覧会カタログを並べた、クリエイティブな本棚です。所内で自由に閲覧いただけます。

09

ART NEWS

展覧会やアートイベントを中心にしたフライヤーやフリーペーパーを設置。自由にお持ち帰り頂けます。

11 BOX-ROOM Gallery

KCIC所内にあるボックスサイズのギャラリースペース。鹿児島県内外のアーティストの作品を展示しています。

10

KCICのメディア

KCIC ウェブサイト (<http://kcic.jp/>)
2014年夏にリニューアルした KCIC ウェブサイト。展覧会やイベント情報はもちろん、市内各地の伝統芸能の団体と行事を網羅した地域独自のコンテンツを公開しています。また「かごしまアートナビ」の掲載会場までのナビゲーション機能とのリンクも掲載。地域の文化を堪能できるサイトです。

<http://kcic.jp/>

03

KCIC BOOKS アーティストシリーズ2014
カゴシマ トーキョー 断片
松本弦人+KCIC 著

進化する実験メディア。

縦横無尽なメディア制作を手がけるデザイナー松本弦人氏と KCIC の共同制作による実験ツールとして誕生した電子書籍&メモパッド。2者の拠点東京と鹿児島の建築、街、食、人などさまざまな[対象]をそれぞれの地域在住者が断片として選び取ったものを綴りました。「カゴシマ トーキョー言葉の断片」(〜3/20)の展示で制作したメモパッドを使い、言葉を添えて、書籍作りに参加してください。

02

Match Flag Project 2014 BRAZIL
アーティスト 日比野克彦

想いをひとつに。
スポーツを愛する人の
アートプロジェクト。

サッカーワールドカップ2014ブラジルに向けて文化芸術の面からサッカーとの触れ合いの場を創造するアートプロジェクトを実施。アーティスト日比野克彦氏の指導により、日本と対戦する相手の国・地域のことを思い描きながら二つのナショナルフラッグを一枚の布の上で一つにし、参加者みんなで試合当日への想いをかたちにしていきました。
主催：山形県、マルヤガーデンズ、アミューズ鹿児島

06

KCIC WORKSHOP

2014年
身近にある街や人の魅力を再発見するワークショッププログラムに加え、多彩なゲスト講師を迎えてオリジナルのワークショップを開催しました。

- ・2014年度に行ったワークショップ
- ・制作プログラム「糸と言葉でえがく」
- ・リサーチプログラム「あたらしい・ちずをつくる」
- 第1回〜第4回(第3回：特別講師 木下賢也)
- ・ゲストアーティストプログラム
- さめしこえ(美術家)、永井友美恵(染織家)、セルジオ・カラトローニ(クリエイター)
- ・特別プログラム：三角みづ紀(詩人)

次回予告 >>

みんなの古着でベンチカバーをつくるワークショップ

アニュアルレポート期間中、訪れた人々の手によってKCIC常設のベンチカバーを作るワークショップを行います。
☆制作に使用する皆さまご自身の古着を募集します！KCIC開所中にご持参ください。詳細は、KCIC ホームページ <http://www.kcic.jp/workshop> をご覧ください。

04

かごしまアートナビ

地域のアート&カルチャースポットを一覧する

鹿児島のアートやカルチャースポットを一覧するガイド「かごしまアートナビ(Kagoshima Art Navi)」のWeb版&紙版の使い方をわかりやすく紹介します。
また期間中、所内では、鹿児島をこよなく愛するスタッフ&ゲストライターが寄稿した電子書籍をお楽しみいただけます。
寄稿：小谷さらさ(ライター)、田中みゆき(日本科学未来館)、東川隆太郎(かごしま探検の会)、KCICスタッフ

次回予告 >>

5月予定 かごしまアートナビツアー 定員：10名 参加費：無料
かごしまアートナビを使って、実際に鹿児島の文化スポットを巡ってみよう。

12

2014年度 活動紹介映像上映

KCIC所内での活動の映像に加え、鹿児島市内各地で開催したイベントも紹介しています。
・伝統芸能 伝承ワークショップ
・新生鹿児島市10周年記念「夏のふるさとコンサート in 吉田」
・言とあかりの散歩道
・〜新生鹿児島市10周年記念〜
「2014 石谷の秋・ふるさとコンサートin松元」ほか

アート・地域・人をテーマに
KCICがおすすめする書籍(紙/電子)を
1冊ずつご紹介。

今回はフリーペーパーを持参します！

KCIC
book
mark

電

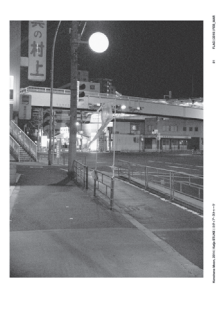


Region

発行/測上印刷株式会社

「鹿児島ブランド情報誌」をテーマに、地域をあたたかな視点で見つめるフリーマガジンの電子版。最新号「鹿児島ラーメン道」をはじめ「闘牛に燃える。」や「奄美の島の物語」といったバラエティ溢れる特集で、地域独特の文化・その魅力を細かく丁寧に紹介する本誌。通好みまで満足させる充実の内容でバックナンバーが全て電子書籍で公開・アーカイブ化されているから、遠方から鹿児島県の情報を知りたい方、また人気の号を入手しそびれたという方には大助かりである。本誌(紙)は日本タウン誌・フリーペーパー大賞2014「レジャー・観光コンテンツ部門」受賞。(Y)

紙



FLAG - Foreigner's Live Art Guide

発行/〇〇〇 Press | outoffice.jp

大阪のローカルアート情報を日英のバイリンガルで伝えるフリーマガジン「FLAG」。府内の現代美術の展覧会やイベントを紹介しつつ、その地の学芸員・専門家らによる批評も掲載された充実した1冊になっている。地域のデザイナー・後藤哲也氏が編集・デザインを担当し発行。ビジュアルをメインに読みやすく、美しい写真でもワクワクするもの。表紙は、アーティストや編集者など、その地のクリエイターが「記録に残したい大阪の場所」や人を写真とともに残す「カバーコラム」となっており、大阪のクリエイティブパワーを見せつけられる。(Y)

地域住民とアーティストがつくる芸術祭

FUKIAGE WANDER MAP

鹿児島県日置市吹上町一鹿児島市の中心部から車で約1時間の場所に位置する人口1万人弱の、小さな町。ここで毎年、アートプロジェクトが開催されているのをご存じだろうか。作家は県内外から招聘され、それぞれがこの地で滞在制作を行う。主催者は、「情熱家」を名乗るアーティスト・博多和宏。地元企業の協賛と、地域住民のサポートを得ながら運営を続けて今年で7回目になる。ここでしか見られない、芸術祭のかたち。

この土地で生まれる作品。

鹿児島市から車を西南へ約1時間ほど走らせると、東シナ海に面する日本一長い砂丘「吹上浜」を有する日置市吹上町へたどり着く。ここで「FUKIAGE WANDER MAP」は毎年2月に開催され、今年で7回目となる。この町の廃校になった小学校でアトリエを構えるために、鹿児島市から移住したアーティストの博多和宏が2009年に立ち上げた。移住当初はその奇抜なファッションから地元の住民が驚き、不審者と間違われ警察に通報されたそうだが、徐々に人々に受け入れられ、交流を持つようになった。特に彼の住む野首地区の婦人部の方たちにとっても温かい対応を受けたそうで、自分のできる「アート」で恩返ししたい、という動機からこの芸術祭は

Local
+ Art

ローカルから発信する
文化を通して街づくりを
ご紹介しています。

地域の住民と共同で芸術祭を主催する。

このプロジェクトは「吹上ワンダーマップ実行委員会」が主催、「野首地区公民館」が共催となっている。この地域は「地区公民館」という区分けの結束が強く、自分の地区の公民館が行うイベントを手伝うのは当たり前、という前意識が人々にはあるようだ。この芸術祭に関しても、野首地区公民館の住民、婦人部の方々スタッフがとして、自分たちの役割を設定して関わっている。女性陣は期間中毎日交代で来場者にお茶や手作りの菓子などをふるまい、男性陣は会場の駐車整理にあたる。会期前には来場者を迎えるために地区清掃やのぼり立てが行われ、芸術祭オープニングでは婦人たちによるオリジナルの詩が披露される。自分たちの住んでいる場所に東洋から作家が来る、観客が来る。それをもてなすのは当然のこと、と事もなげに



主催者・博多和宏と野首地区婦人部の女性たち

始まった。最初の数年間は彼のアトリエのある廃校の体育館を会場に、鹿児島の若手作家の作品を展示した。2011年からは県内外の作家を招聘し、吹上町内の店舗や温泉旅館、ホテルの一室、神社、吹上浜の海岸などを会場として、各作家が吹上町に一定期間滞在し、制作した作品を展示する現在のスタイルになった。国内外で活躍する、気鋭の作家がこの土地と出会って制作した新作が見られるのだ。

山中カメラ「吹上砂丘音頭」ポンドダンス大会の様子



動く人々の姿は、現在よく見られる地域を舞台とした芸術祭の在り方に、ある気づきをもたらすものであるように思う。会期最終日には参加作家の山中カメラによる「ポンドダンス大会」が行われる。彼がこの地に滞在して制作した現代盆踊り「吹上砂丘音頭」を、老いも若きも、作家も観客も住民も混ざり合い、皆で手を取り合い輪になって踊るのだ。当然だとも違う、芸術祭。いわゆる「ナントカトリエンナーレ」みたいなものを期待してはいけない。良くも悪くも、博多氏の個性が際立ち過ぎる、一見何のイベントなのか、わかりづらい。車でもない全ての会場を見まわるのは困難な上に案内サインも親切とは言えない。しかしそこそこ芸術祭の、この町の在り方に合わせてみてほしい。時間の速度、自然と人との距離感、もてなされ方。それらに思い切つて身を投じてみると、どこにでもある地域がからどこにもない地域へと、この町の認識が変わるはずだ。(平川 浩/KCIC)

FUKIAGE WANDER MAP
<http://wander-map.jp/>